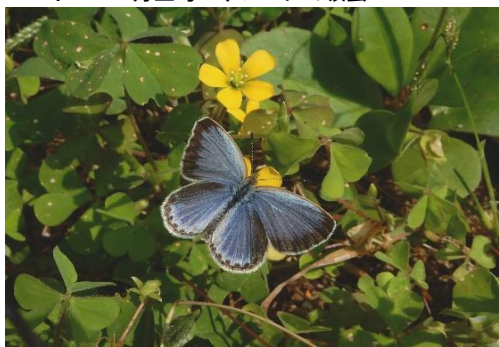


和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ヤマトシジミ	シジミチョウ科	最も代表的なシジミ	○	○	○	全国

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草	食樹		発生回数/年			越冬形態					
カタバミ			5~6			幼虫					



ハイム 7月上旬 ネジバナで吸蜜



ハイム 10月中旬♂ 食草のカタバミで吸蜜



ハイム 10月上旬 キバナコスモスで吸蜜



多摩川土手稲田堤♀ 10月末 センダングサで吸蜜



多摩川土手稲田堤♂ 10月末 センダングサ (見えない) で吸蜜



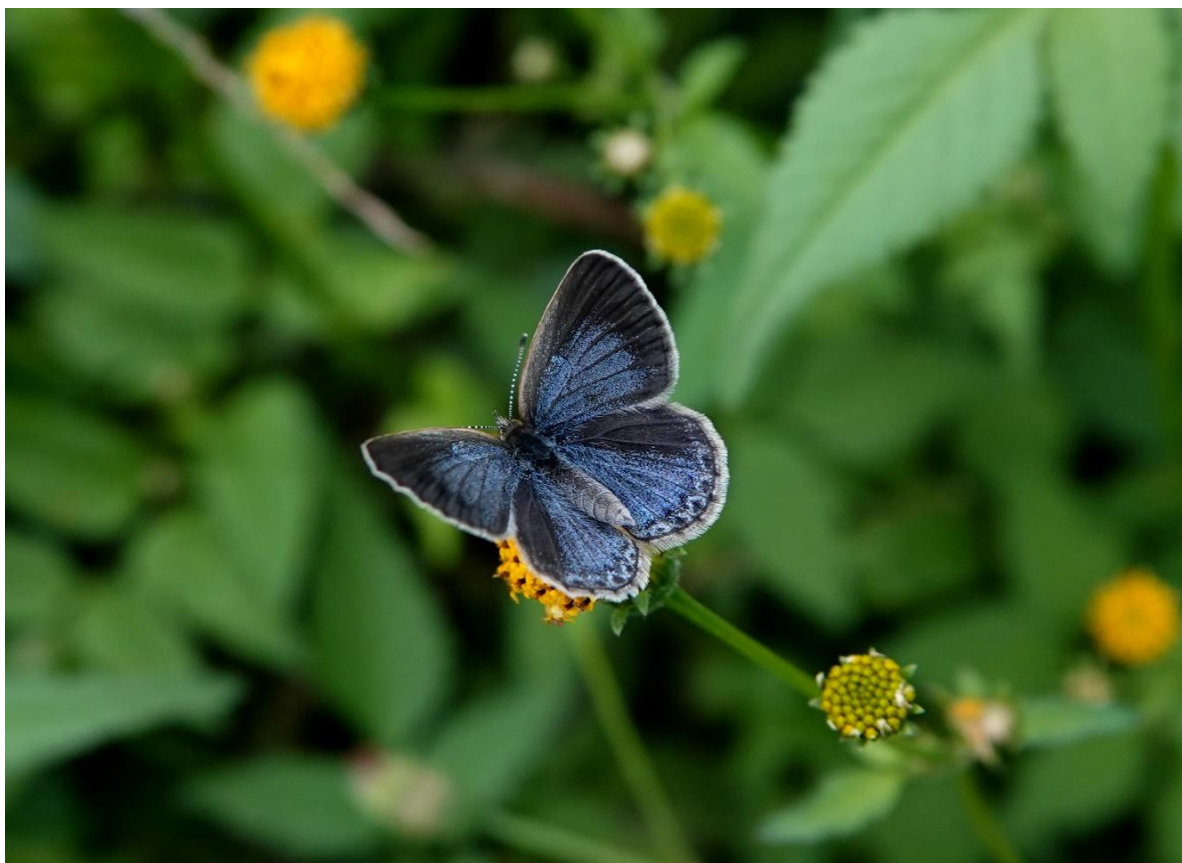
ツバメシジミ ♂多摩川土手 4月下旬

「ヤマト一和」を冠するだけあって、どこにでもいる身近なシジミチョウです。食草のカタバミがどこにでも進出することから結果として、小さな蝶の割には、都会のど真ん中にも生息するたくましさを持っています。

ハイム内も同様でカタバミは多いので、春～秋にヤマトシジミもあちこちで観察できます。飛んでいるところだけ見ると、後羽にしっぽ（尾状突起）のあるツバメシジミと間違ふことがあります。オスを比較すると、青～紫の光沢はツバメシジミが強くややマットでより色が薄いのがヤマトシジミです。メスはともに濃灰色です。



- ↓ 低温期のメス（アオメス） ヤマトシジミ♀ 多摩川土手久地 10月下旬  
通常では濃灰一色のメスが春先、晩秋の低温期には濃灰の地に青藍色の鱗粉を散らしたタイプが混じる。  
ツバメシジミのメスにも同様な現象が見られる。



- ↓ 低温期のメス（アオメス） ツバメシジミ♀ 多摩川土稲田堤 4月上旬

